

インクルーシブ保育 プラスワン

[こんな場面で、どうしよう?] おかたづけなんて、いや! 編

自由あそびをそろそろ切り上げて、もうすぐ給食の時間。



「おかたづけをしよう!」と言っても、まだまだ遊びたいと主張するハナコちゃん。同じクラスのタロウくんが、「おかたづけしないとダメだよ!」と声をかけると、ハナコちゃんはより意地を張って、遊び続けようとしています。

よくある
ヒント

そんなときは・・・

『ハナコちゃんの気持ちを受け止めつつ、個別に片付けを促してみましよう!』(気持ちと行動の切り替えを促す)

そこで保育者は、「まだあそびたいよね。でも、そろそろおかたづけの時間だよ」と、気持ちを受け止めつつ伝えましたが・・・

あれれ・・・失敗!?



○ハナコちゃんは聞く耳を持たずに、片づける様子はありません。

○それどころか、保育者に敵意むき出しで、反発しているようにも見えます。

動画はこちら

- なぜだろう? 

1. 声掛けが保育者のタイミング

「おしまい」と理解しているが、遊びを切り上げるタイミングが互いに一致しない(行動中断の困難さ)。

2. 次の活動への期待が持てない

今後、こんなに楽しい時間はないと思込んでいる(見通しの弱さ)。

ここが 支援のプラスワン 《切り替えのきっかけを与える》



i 漫画版はこちらから

こうすれば成功!!【片づけをして、次の活動に向かえた!】

1. その子に合わせた「切り替えのカギ」を見つける

- ① 遊びの切りの良いところで、保育者が再度声をかけた(指示の繰り返し)。
- ② タイマーを使って合図を出した(人を介さない合図)。
- ③ 仲良しのお友達が給食に誘ってくれた(動機づけの向上)。

2. 次の活動に移るメリットを伝える(動機づけの向上)。

「今日の給食は、大好きなハンバーグだよ」と具体的に伝えた。



「プラスワン」を深めよう

子どもの中には、気持ちの切り替えがうまくいかないため、一斉指示に従うことが難しい子がいます。「かたづけの時間」と頭では分かっているが、「遊び続けたい気持ち」をうまく処理することができません。そんなとき、インクルーシブ保育では、「子どもの気持ちを受け止めつつ声掛けをする」という支援が有効だと言われますが、実際には、うまくいかないこともあります。

支援のカギは、「気持ちや行動を切り替えるきっかけづくり」です。そのきっかけは、声掛けのタイミングであったり、タイマーのような便利アイテム、または、仲の良いお友達の声掛けだったりときまぎまぎです。日頃から、きっかけになりやすいものを把握しておくことが大切です。そして、何より大事なことは、うまく切り替えられたときに、「〇〇すると、気持ち切り替えやすいね」と子どもと振り返ることです。

ポジティブな振り返りは、保育者の支援スキルを高めるとともに、子ども自身の自己理解を促します。